

巻頭インタビュー

アルメニアと日本の懸け橋



メリネ メスロピャン さん
アルメニア共和国エレバン出身
東北大学大学院在籍

—まずはアルメニアという国の紹介をお願いします。

アルメニアは黒海とカスピ海の間であり、西にトルコ、北にグルジア、東にアゼルバイジャン、南にイランがあります。キリスト教と深い縁のある国として知られています。ノアの方舟が辿り着いたとされるアララト山はアルメニアとトルコの国境付近にあります。紀元301年に世界で初めてキリスト教を国教としました。いまでも国民のほとんどはキリスト教徒です。

—アルメニアは、もともとソヴィエト連邦でしたね。

はい。旧ソ連から独立したのが1991年ですから、私が6歳のときです。その数年前に大きな地震が起こって原子力発電所の稼働が停まっていたことなども重なり、電気が極端に不足して、小学生のころはロウソクの火で勉強することもありました。また、物資もすべて不足していてパンの配給に並んだこともありました。アルメニアが独立してすぐのところと比べれば、ソ連時代の方が仕事もあり、まだよかったと両親は言っていました。

—日本語を学びきっかけは何だったのでしょうか？

子どものころから歌が大好きで、本当は音楽を勉強したかったんですが、家庭の事情で音楽大学への進学は諦めざるを得ませんでした。では何をしようかと考えた時に、前から漠然と気になっていたことを思い出しました。アルメニアでは、とても読みにくい手書きの文書を「日本語のように書いてある(から分からない)」と表現するのですが、その「日本語」とはいったいどんな言葉なんだろうか？そんな時にエレバン人文大学で学んでいる知人から日本語学科があると聞き、とても興味を覚えました。

—実際勉強してみて、どうだったでしょうか？

ものすごく面白くて、はじめのうちは難しさを感じませんでした。アルメニア文字も独特な文字なので、漢字やひらがなもそれほど抵抗はありませんでした。ですが、勉強すればするほど難しくなっています。漢字はいまでも勉強しています。

—日本にはじめて来たのはいつでしたか？

学生のころに奨学金を得て、大阪に2週間ほど滞りました。9月でしたが、成田に着いたら台風で、蒸し暑くて空気が足りないように感じたことを覚えています。日本食に対する抵抗はまるでなくて、とても楽しく



アルメニア大統領(左)の被災地視察、慰問に通訳として随行しました。

過ごしました。大学を卒業しアルメニアの旅行社に勤めてからは、仕事で3度日本に来ました。そして、文部科学省の奨学制度の試験を受けて合格し、日本に来る予定だったのですが…

—震災と重なった？

そうです。元々は2011年4月に来日の予定でした。3月9日に航空券を受け取っていざという矢先にテレビからショッキングな映像が流れてきました。「どうして私が行くはずの宮城県の街が…」と絶句しました。

—それでも来日を諦めなかったのですか？

私自身はフェイスブックで知り合った東北大学の留学生などから情報を得ていましたので、全然心配していませんでしたが、家族や友人を説得するのが大変でした。予定が半年伸びましたが、2011年の10月に無事宮城に来ることができました。

—暮らしてみてもうどうでしょう？

仙台はとても住みやすいです。街のサイズはアルメニアのエレバンとだいたい同じです。移動は自転車がとても便利です。アルメニアでは自転車は子どものおもちゃで大人は乗りません。あとは天井が低いのがちょっと慣れません。とても圧迫感があります。

それでも、ずっと日本にいたいと思います。日本人は自分の意見や感情を表さないことやちょっと温かみに欠けるといったこともありますが、人をリスペクトし、丁寧な対応をする人間関係がとても心地いいです。

—来日1年余りで、すでに様々な経験をされたようですが…

被災地の視察で宮城を訪れたアルメニア大統領の通訳をしました。また、「女子留学生日本語弁論大会」の宮城県大会に出場し、優勝しました。それから、市民参加のミュージカルに出演して独唱しました。まさか日本で歌を歌えるとは思いませんでした。そして、大学院の試験にも合格しましたので、4月からは修士課程で学びます。

—どんな研究をされるのですか？

ダイアナ・アプターというアルメニア人の女性外交官について研究します。1920年ごろにアルメニアから日本に避難してきた数多くのアルメニア人を救った方です。アルメニアと日本は外交関係を結んでまだ20年余りですし、日本にアルメニア大使館ができたのはわずか2年前と日本にとってアルメニアはまだまだ若いパートナーですので、それよりはるか以前の「先輩」の偉業について、学びたいと思っています。

このコーナーでは、県内の国際活動団体の2013年2月～3月の活動予定をご紹介します。

MIAイベントカレンダー

2013	2	S	M	T	W	T	F	S	3	S	M	T	W	T	F	S
	2						1	2	3						1	2
	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	

※●はイベント開催予定日です。詳しい内容については以下でご確認ください。

アイコンの見方 人:主催 場所:会場 時計:時間 紙幣:申し込み 円:参加費 電話:電話 FAX:FAX Eメール:Eメール HP:ホームページ

2月 FEBRUARY

2・3月 土・日・祝

瑞巖寺ボランティアガイド

- 人 松島善意通訳者の会
- 場所 瑞巖寺
- 時計 10:00～15:00
- HP <http://www.geocities.jp/matsushimagw/>

2・3月 毎週土曜

国際語エスペラント講座 塩釜教室

- 人 仙台エスペラント会
- 場所 塩釜市港町2-3-11 ビルドスペース
- 時計 13:00～14:00
- 電話・FAX・メール
- 円 初回無料、継続はテキスト代等要
- 電話 080-3198-4818(ビルドフルーガス高田)
- FAX 022-389-1620(手塚)
- Eメール esperanto@goo.jp
- HP <http://www.birdflugas.com>

2・3月 隔週水曜

こんにちは、エスペラント

- 人 仙台エスペラント会
- 場所 仙台市宮城野区榎ヶ岡5番地 みやぎNPOプラザ
- 時計 13:00～15:30
- 電話・FAX・メール
- 円 初回無料、継続はテキスト代等要
- FAX 022-389-1620(手塚)
- Eメール esperanto@goo.jp

1日～3月31日

『世界にたった一つだけのコマ☆2013』

- 人 美楽アートクラブ、御独楽處廣井(おんごまどころひろい)
- 場所 秋保工芸の里御独楽處廣井
- 時計 10:00～14:30
- 円 要予約※一日定員8名
- 円 1,000円(江戸独楽づくり、彩色体験ワークショップ)
- 電話 022-398-2770

3日

クレープ・パーティー～フランスの節分

- 『ラ・シャンドゥル』～[La Chandeleur]
- 人 仙台日仏協会・アリアンス・フランセーズ
- 場所 仙台市青葉区本町二丁目8-10-4F&5F
- 時計 後日HPIにて告知
- 円 要
- 円 後日HPIにて告知
- 電話 022-225-1475
- FAX 022-225-1407
- Eメール contact@alliancefrancaise-sendai.org
- HP <http://alliancefrancaise-sendai.org>

第41回地球の子ども通信国際交流事業
「日本の子ども達による香港ホームステイプログラム」研修会

- 人 地球の子ども通信(CCE)

- 場所 仙台市桂市民センター
- 時計 9:30～12:00
- 電話・FAX 022-376-5382

17日

- 第41回地球の子ども通信国際交流事業
「日本の子ども達による香港ホームステイプログラム」研修会
- 人 地球の子ども通信(CCE)
- 時計 電話受付または予約なしでもOK
- FAX ※2月3日と同じ

20日

- 申請取次行政書士による外国人のための
入管手続無料相談会
- 人 宮城県行政書士会
- 場所 仙台市青葉区役所 4階市民相談会会場
- 時計 13:00～16:00
- 円 電話受付または予約なしでもOK
- 円 無料
- 電話 022-261-6768
- FAX 022-261-0610

21日

- ナミビアのウラン鉱山と世界・日本
- 人 アフリカ・セミナーの会
- 場所 仙台国際センター研修室
- 時計 10:00～12:00
- 円 不要
- 円 700円
- 電話・FAX 022-362-7907

23日

- CCEチャリティバザー
- 人 地球の子ども通信(CCE)
- 場所 理事宅
- 時計 10:00～14:00
- 電話・FAX 022-376-5382

24日

- MIA日本語ボランティアセミナー
- 人 宮城県国際化協会(MIA)
- 場所 仙台市戦災復興記念館4階第2会議室
- 時計 13:00～16:00
- 円 電話・FAX・メール(定員40名)
- 円 無料
- 電話 022-275-3796
- FAX 022-272-5063
- Eメール mail@mia-miyagi.jp
- HP <http://mia-miyagi.jp/>

ひなまつり交流会

- 人 日本伝統文化の会、(財)仙台国際交流協会
- 場所 仙台国際センター 1F 交流コーナー、研修室A・B
- 時計 12:00～15:00
- 円 1月25日(金)からチケットの販売開始
- 円 共通券(前売券:200円/当日券:300円)、生け花券(300円)、着付け券(300円)。生け花・着付けの券については前売りのみ。
- 電話 022-265-2480

- FAX 022-265-2485
- Eメール plan2@sira.or.jp
- HP <http://www.sira.or.jp/japanese/index.html>

3月 MAY

2日

- ワークショップ『ネイティブのフランス語-隠語-』
- 人 仙台日仏協会・アリアンス・フランセーズ
- 場所 仙台市青葉区本町二丁目8-10-4F&5F
- 時計 後日HPIにて告知
- 円 要
- 円 後日HPIにて告知
- 電話 022-225-1475
- FAX 022-225-1407
- Eメール contact@alliancefrancaise-sendai.org
- HP <http://alliancefrancaise-sendai.org>

3日

- 第41回地球の子ども通信国際交流事業
「日本の子ども達による香港ホームステイプログラム」研修会
- 人 地球の子ども通信(CCE)
- 時計 電話受付または予約なしでもOK
- FAX ※2月3日と同じ

7日

- アフリカに夢を託したアフリカ系アメリカ人女性—シャーリー・グレアム・デュボイスの軌跡
- 人 アフリカ・セミナーの会
- 時計 電話・FAX・メール ※2月21日に同じ

10日

- 「国際協力NGOと東日本大震災～気仙沼の事例より～」
- 平成24年度 宮城県国際交流推進連絡会議・国際協力セミナー
- 人 国際協力機構(JICA)東北支部、宮城県国際化協会(MIA)
- 場所 エルソーラ仙台大研修室
- 時計 13:00～16:00
- 円 電話・FAX・メール(定員50名)
- 円 無料
- 電話 022-275-3796
- FAX 022-272-5063
- Eメール mail@mia-miyagi.jp
- HP <http://mia-miyagi.jp/>

17日

- 第41回地球の子ども通信国際交流事業
「日本の子ども達による香港ホームステイプログラム」研修会
- 人 地球の子ども通信(CCE)
- 時計 電話受付または予約なしでもOK
- FAX ※2月3日と同じ

20日

フランス語圏まつり
【Fête de la francophonie 2013】
仙台日仏協会・アリアンス・フランセーズ
仙台市市民活動サポートセンター B1F
市民活動シアター
後日HPにて告知

要
後日HPにて告知
022-225-1475
022-225-1407
contact@alliancefrancaise-sendai.org
<http://alliancefrancaise-sendai.org>

22~31日

第41回地球の子ども通信国際交流事業
【日本の子ども達による香港ホームステイプログラム】
地球の子ども通信(CCE)
022-376-5382



JICA宮城デスクからのお知らせ

※JICA=独立行政法人国際協力機構(開発途上国に対する総合的な二国間援助機関で、技術協力・有償資金協力・無償資金協力を行っています)
TEL.022-275-5540 E-mail jicadpd-desk-miyagiken@jica.go.jp
JICA東北ホームページ <http://www.jica.go.jp/tohoku/>

民間連携ボランティア制度のお知らせ

平成24年度からスタートした新しいプログラム

-40歳以上の方の派遣、3ヶ月からの短期派遣も可能になりました-

新興国への事業の展開、開発途上国を対象としたBOPビジネスへの関心の高まりなど、企業活動がグローバル化する中、それに対応するための人材の確保が喫緊の課題となっています。

そこでJICAでは、民間企業の海外展開のための人材育成の場として、JICAボランティアをご活用いただくことを提案します。JICAボランティアは、言葉、文化、習慣など、全てが日本と異なる開発途上国において、現地の人々と共に組織の一員として活動します。ボランティア活動に従事することで、海外でのビジネスに欠かせないグローバルな視野や柔軟性、マネジメント力、困難や逆境に立ち向かうたくましい精神力、コミュニケーション能力などが培われます。

民間企業の皆さまにご利用いただく特別プログラム「民間連携ボ

ランティア制度」を、社員の人材育成にぜひお役立てください。

詳細は、下記URLより資料をダウンロード可能ですので、そちらの方で確認ください。また、ご不明な点がございましたら、当支部ボランティア担当までお気軽にお問合せください。

■JICA東北ホームページ

<http://www.jica.go.jp/tohoku/topics/2012/20121207.html> をご覧ください!

■問い合わせ先

JICA東北 ボランティア募集担当

TEL : 022-223-4772 E-Mail : jicathic-jv@jica.go.jp



平成25年度JICAボランティア 春募集について

4月より例年通り行う予定です。JICA東北やJICA宮城デスクにて個別対応をいたしますので、JICAホームページにてご確認の上、お気軽にお問い合わせください。
JICAホームページ <http://www.jica.go.jp/>

MIA日本語ボランティアセミナー参加者募集



このセミナーは、日本語ボランティアの役割や、よりよい支援のあり方について考えること、また、参加者同士の意見交換・情報交換を通して相互の連携を図ることにより、ボランティア活動をより良いものとしていただくことを目的として開催するものです。日本語ボランティアとして活動中の方、ご関心のある方、是非ご参加ください。

■日時 2013年2月24日(日) 13:00~16:00

■場所 仙台市戦災復興記念館4階第2会議室

■主催 (公財)宮城県国際化協会

プログラム

◎講義・ワークショップ

「『対話』を通じた日本語学習支援の理論と実際~地域日本語教室向けの教材を使って~」

講師 森篤嗣氏(帝塚山大学現代生活学部こども学科准教授)

地域の日本語教室向けに作られた「にほんごこれだけ1・2」の著者をお招きして、なぜ対話(おしゃべり)型の活動が地域日本語教室ではおススメなのか、具体的にどうすればいいのか、についてお話しいただくとともに、ワークショップを行って、実際に活動するときのコツを学びます。文型や語彙を順番に「教える」のではなく、ことばの習得を「支援する」方法、そして、支援者の役割について、いっしょに考えてみませんか。

◎懇談会

お茶とお菓子を囲んで、他のボランティアの方々との情報交換、ネットワークづくりをしませんか。

■参加費 無料

■申込 MIAまで(定員40名)

「なぜ一六二人全員が助かったか 大震災時 女川町で津波に遭遇した中国人実習生」

東日本大震災で壊滅的な被害を受けた沿岸部では、多くの中国人実習生が水産加工の現場等で働いていました。この本は、女川町に当時いた162人の実習生の救出、帰国からその一部の実習生の再来日までを著者藤村三郎さんを始めとした日中友好協会宮城県連泉支部が丹念に追いかけています。女川町で中国人実習生を救い、自らの命を落とされた佐藤水産の佐藤充専務のニュースは日本でも中国でも大きく取り上げられましたので、ご記憶の方も多いことと見えます。詳細は同事務局(電話022-372-8277)までお問い合わせください。



MIA情報便



このコーナーでは、MIA宮城県国際化協会の最近の動きをお知らせいたします。
 いずれの件も、お問い合わせは ☎022-275-3796 E-mail mail@mia-miyagi.jp まで。お気軽にどうぞ。



「国際協力NGOと東日本大震災～気仙沼の事例より～」

平成24年度 宮城県国際交流推進連絡会議・国際協力セミナー

震災後、多くの国際協力NGO・NPO団体が宮城県内で支援活動を行っています。気仙沼市でも多くの団体が支援活動を今も行っていきます。中でも、NPO難民支援協会は行政との連携で被災在住外国人の就労支援(ホームヘルパーの資格取得)を行い、結果を導き出しています。

今回は、その支援プログラムに携わったキーパーソンに当時の状況や支援活動の内容、今後の展望についてお話し頂きます。また、介護の現場における定住外国人の就労の可能性についても考える場とします。

- 日時：2013年3月10日(日) 13:00～16:00
- 場所：エルソーラ仙台大研修室(AER 28階)
仙台市青葉区中央1-3-1
- 主催：(独法)国際協力機構(JICA)東北支部
(公財)宮城県国際化協会
- パネリスト：石井宏明氏(NPO法人 難民支援協会 常任理事)
気仙沼市役所職員、介護福祉施設職員(予定)
- 料金：無料
- 申込：MIAもしくはJICA宮城デスクまで(定員50名)

ライブラリー

ライブラリーのコーナーで紹介されている図書は全て貸し出しまたは当協会図書資料室で閲覧可能です。

『〈日本語教師のためのTIPS 77①〉クラスルーム運営』 著：横溝紳一郎 発行：くろしお出版

本書は、タイトルのとおり、日本語教師が教室形式で教えるときのヒントをまとめた本ですが、地域の日本語教室で支援者として活動する人にも役に立つ内容となっています。

「学習者間のトラブルへの対処の仕方」「学習者へのことばがけの工夫の仕方」など、支援者が学習者と関わる際に知っておいた方がよいことや、視覚教材や生教材を使った具体的な教室活動のアイデアなどが、コンパクトにわかり易く解説されています。

プロの日本語教師にとっても、地域の日本語教室の支援者にとっても、自身の活動を振り返るきっかけを与えてくれる一冊となるでしょう。



サポーターの声

岡本ワニダーさん MIA外国籍の子どもサポーター



今、小学校でタイ出身の子どものサポートをしています。

この活動のことは、日本語教室の先生から聞きました。話を聞いたときは、自分も日本語を勉強中なので「私にできるかな。ちょっと心配だな。」と思いました。でも、先生から「やってみないとわからないでしょ。頑張ってみたら。」と励ましの言葉をもらって、サポーターとして登録し、学校でサポート活動を始めることにしました。

学校では、日本語を教えたり、タイと日本の生活習慣の違いについて説明したりしています。それから、その子が毎日の生活のことなどをタイ語で話してくるので、それを聞いてあげることもあります。

初めて学校に行った日は、その子とどうコミュニケーションをとったらいいか少し困ったのですが、だんだん私に慣れてきたようで、今では私が学校に行くと、安心した表情を見せてくれます。私自身も、最初に感じた不安はなくなり、とても気持ちよく活動できています。

子どもが熱心に勉強しているときは、私もとても嬉しくなります。これからもサポーターとしての活動を頑張りたいと思います。

「MIA 外国籍の子どもサポーター」とは…

県内に在住する外国籍住民の増加に伴い、県内の小中学校では日本語学習などの支援を必要とする外国籍児童・生徒も増加しています。そうした子どもたちのために日本語教育の基礎を身に付けた人材や母語に精通した人材をサポーターとして派遣することで、子どもたちの円滑な学校生活をサポートするとともに、学校現場の負担軽減に貢献しています。

賛助会員募集

MIA(公財)宮城県国際化協会は、県民参加の幅広い国際交流を進め、人と人との輪を広げていくために、皆様の御理解と御協力を求めています。



- 賛助会員の資格
本協会の趣旨に賛同し、運営活動に協力していただける個人や団体(国際活動団体、企業、機関)など
- 賛助会員の区分と年会費
個人会員 / 1口 3,000円
団体会員 / 1口 10,000円
- 賛助会員の特典
◎ 協会機関紙「みやぎの国際情報誌 倶楽部MIA」の定期送付(年6回)
◎ 「MIA多言語かわら版」(日・英・中・韓・葡)の定期送付(年6回)
- ◎ 当協会主催のイベントや各種講座の案内及び参加費の減免
- ◎ 個人会員については協会と提携する旅行会社が指定する国内外の旅行代金の一部割引
(株)JTB東北仙台支店
宮交観光サービス(株)
日本通運(株)仙台支店
- 入会方法
◎ 本協会あて御連絡ください。
所定の申し込み用紙と振り込み用紙を送付いたします。



倶楽部 MIA vol.65

編集・発行
公益財団法人 宮城県国際化協会
〒981-0914
仙台市青葉区堤通宮宮町4番17号
宮城県仙台合同庁舎7階
TEL 022(275)3796
FAX 022(272)5063

E-mail mail@mia-miyagi.jp URL http://mia-miyagi.jp/

